

令和5年度 がん教育授業の実践研修会

柏市立柏中学校
教諭 宇佐美 茉奈

1 はじめに

本校は、昭和22年5月1日、柏町立柏中学校として開設された。都心のベッドタウン柏市の中心部に位置し、柏駅から徒歩8分という立地である。かつては日本一のマンモス校でもあったが、分離などにより現在は全校生徒494名、通常級13学級・支援級3学級の中規模校である。敷地は市内の他校と比べて倍ほどあり、校舎・体育館も比較的新しく、たいへん恵まれた教育環境にある。令和10年度には学区の小学校と統合し、義務教育学校として生まれ変わる計画もあり、先進的な取り組みが求められている学校ではないかと感じている。

本校に通う生徒たちは、中核市の中心部に居住する家庭の子供たちであり、比較的裕福な家庭の子供たちが大半を占めている。今年度の全国学力学習状況調査では、全国公立の平均正答率を100としたときの相対値において、国語103.2、数学121.6、英語120.6という結果が出ている。進路についても、千葉県内はもとより、東京・茨城・埼玉などの私立高校に進学する生徒が比較的多く、昨年度の県内公立高等学校進学者の割合は卒業生全体の45.4%となっている。学習への意欲は全体的に高いと言えるが、一部の生徒の学習遅滞があり、上位層との差が感じられる。

本校の学校教育目標は「豊かに生きるために必要な知性と徳性を備えた心身ともに健康な生徒の育成」であり、「自ら学び、自ら鍛える実力のある生徒（自学）」「進んで力を合わせ、粘り強く働く生徒（勤労）」「心身ともに健康で、心豊かな生徒（健康）」「明るく礼儀正しい生徒（奉仕）」を「めざす生徒像」として掲げている。中でも「健康」については、保健体育科の教員としてその育成を中心的に担わなければならないと考えており、日々の授業や部活動、生徒との交流をおして子供たちに問いかけてきた。

この度、県のがん教育授業の実践研修校の指定を受け、授業を実践するにあたり、千葉県教育庁教育振興部保健体育課保健班指導主事および柏市教育委員会指導課指導主事との打ち合わせの中で、「外部講師の積極的な活用」という方針を定めた。柏市には「国立がん研究センター」があり、がん研究の最前線を行く医師や医療関係者の方による授業を展開することにより、「がん」に対する生徒たちの理解がさらに深まるのではないかと考えた。また、生徒たちの中には将来医師や医療関係の職に就きたいと考えている者もいて、本実践が生徒たちへの「キャリア教育」としても有効なものになるのではないかと考えた。本校の、そして私自身のがん教育の今後の進め方を見いだすことにつながる実践となることを願い、本実践を計画した。

2 授業実践

- (1) 日時 : 令和5年11月16日(木)
- (2) 授業者 : 宇佐美 茉奈 (教諭)
- (3) 講師 : 石井 源一郎 先生 (国立がん研究センター)
- (4) 単元名 : 健康な生活と疾病の予防 ア 知識
(イ)生活習慣病と健康 (ウ)生活習慣病などの予防

(5) 本時の目標

- ・がんの疾病概念や原因、予防の必要性などを正しく理解して、自分の生活に結びつけて行動できるようにする。【知識・理解】
- ・がんの特徴とその予防法を身に付け、将来の自分の生活を意識して考えることができ、課題解決に向けて説明し合うことができるようにする。【思考・判断】

(6) 本時の展開

段階	学習内容と活動 ●発問	○教師の指導・支援 ★評価	資料
導入 2分	1 本時の学習内容について確認する。	○本時は外部講師の方とがんに ついて学習することを知らせ、 学習意欲を高めさせる。 ○授業中にがんについて考える ことが苦しい時は無理をして 続けなくてよいことを伝える。	スライド
<p>がんとはどのような病気だろうか。現在のがんの診断、治療方法にはどのようなものがあるのだろうか。</p>			
展開 40分	<p>2 外部講師から、がんについて説明していただき、理解を深める。</p> <p>●がんとはどんな病気でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人に多い。 ・細胞が突然変異する。 ・転移する病気 <p>●がんの診断について知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳しくは知らない。 ・テレビやドラマでのシーンが思い浮かぶ。 <p>●がんの治療方法について知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤 ・手術 	<p>・外部講師の話をしっかり聞かせ、発生や予防の大切さを理解できるように伝える。</p> <p>○講師のサポートを行う。</p> <p>○発表や意見が出ない場合は、ヒントなどを出して、発言しやすい状況にする。</p> <p>★がんについて正しく理解しようとしている。 【知識・理解】</p>	スライド
まとめ 3分	5 本時の学習についてまとめる。 ①講師の先生への質疑応答 ②講師の先生へのお礼	○質問する生徒に寄り添い発表しやすいように支援する。 ★後日、クロムブックで感想を記入する。 【知識・理解】	スライド



【授業前】

- ・講師の先生と、授業内容についての確認・打ち合わせを行った。
- ・がんによって近親者をなくしている生徒もいるので、授業の内容に不安がある場合や、授業中に苦しい気持ちになる場合は無理をしなくて良いと事前に伝えた。
- ・2年次に保健の授業でがんの学習はしているため、授業前にもう一度、教科書を読みなおすように声を掛けた。

【授業中】

- ・講師の先生のサポートを行った。
- ・生徒への声掛け

【授業後】

- ・アンケートを実施した。
- 〈アンケートより〉

- ・全員授業参加型で答えていく形式だったので楽しかったです。がんについてまだよく知らないこともあったのでたくさんのがんが学べてよかったです。自分自身も健康に気をつけて癌になるリスクを下げたいと思います。
- ・がんについて普段は触れないことをより深く知ることができてよかったです。全く知らない名前が出てきても石井先生がうまく丁寧に教えてくださったので、すぐわかりやすく頭に入った。がんにならぬよう普段の生活からでもできることはしようと思った。
- ・なかなか触れる機会のないがんについて、その道のエキスパートの方から教わるという、非常に貴重な経験で、今後の健康生活にとっても活かせるようなお話ばかりだった。
- ・今回の授業で、直接関わる医者の方の他に病理医という、癌がどの種類なのか調べてくれる方がいることを初めて知りました。私は健康に過ごしたいと思うので、食事や運動などの今からでも出来る対策をしたいと思っています。

講師の先生が「全員参加型（質問形式）」で授業を実施してくださり、生徒は楽しく参加している様子だった。「がん」という内容だが、あまり重い話になりすぎないように、クイズ、画像、イラストを交えて説明がなされ、体調不良を訴える生徒は1人もいなかった。また集会形式ではなく1クラスずつ授業を実施したため、生徒たちはより集中して話を聞いていたように感じた。医師を外部講師としてお招きしたがん教育の授業は初めてだったが、教科書には載っていない専門的な内容を分かりやすく御指導いただき、生徒・教員共に深い学びとなった。

3 保健体育の授業以外の取り組み——柏市医師会主催「健康教育に関する標語・川柳及び図画募集」の活用



柏市医師会主催「健康教育に関する標語・川柳及び図画募集」について

<目的>

本事業は、柏市公立小中学校に対し、健康教育活動を支援するため、柏市医師会の公益事業に位置づけて3か年の継続事業とするもので、柏市の児童生徒が、将来どのライフステージにおいても心身ともに健康で暮らすことができるよう、健康と疾病予防などに関する基本的知識の理解を目的とします。

※令和4年度～ 3か年の事業。テーマ「がん」ってどんな病気？

※「がん教育」の選定は、文部科学省がまとめた「学校におけるがん教育の在り方」報告書および新学習指導要領において、中学校保健体育でがんについての取り扱いが明記されたことに依る。

(令和4・5年度「健康教育に関する標語・川柳及び図画募集」について（通知）より)

本校では、文部科学省発行の「中学校・高等学校版がん教育プログラムの展開例」を参考に、中学1年生を対象に養護教諭による授業を実施している。令和4年度は保健体育の時間で中学1年生男子のみに実施し、令和5年度は中学1年生全クラスで実施した。がん教育というデリケートな内容を扱うため、授業の実施に当たっては、事前に保健体育科教員及び学級担任より、授業の日時・内容を周知してもらい、必要な生徒への配慮に努めている。導入において、柏市医師会より紹介のあった動画「がんについて」（国立がん研究センター作成）を使い、がんの正しい知識の理解をしてもらい、その後動画を振り返りながらクイズ形式のプリントで、がんの病気について確認し、理解を深める。最後に、がんを予防するために将来の自分が心がけたいこと・自分の大切な人に伝えたい予防のためのメッセージを標語として考え、お互いに伝える活動を行う。

〈生徒が作成した標語作品〉

「がん検診 未来が変わる 第一歩」

「つなげよう 命のバトン 検診で」

「検診で 花咲く笑顔 皆のため」

〈授業後の生徒感想〉

- ・がんはとても遠い存在だと思っていたけれど、2人に1人がなってしまうような身近な病気だと分かった。自分は生活習慣が良くない部分があるため、これから見直していきたい。
- ・今日の授業を聞いて、親に言ったりして、なるべくがんにかからないような工夫をしたいと思いました。
- ・がんについてよく知らなかったけど、よく分かった。他人事だと思っていたが、将来気をつけて、元気なおばあちゃんになりたいと思いました。
- ・あまり身近な病気でないと思っていましたが、このクラス36人中18人ががんになるかもしれないと思ったら、ビックリしました。みんなで、病気にならないように、運動や食事に気を付けて、さらにお父さんとお母さんに検診をすすめたいと思いました。

日本のがん罹患の現状に驚いた生徒が多く、その結果、他人事ではなく身近な病気として考え、生活習慣の見直し、早期発見のための検診の重要性等を意識した内容の感想が多く聞かれた。柏市医師会主催「健康教育に関する標語・川柳及び図画募集」を機に始めた活動だが、保健体育の時間だけでなく、さらに特別授業を行うことで、一人一人の知識と予防意識の高上につなげることができたと考えている。今後も柏市の事業と関連づけて行っていくつもりである。

4 おわりに

今回のがん教育をとおして、教科書だけでは学ぶことのできない、専門的な内容を教えていただき、生徒・教員共に充実した時間を過ごすことができた。生徒に授業前に『医師のイメージは?』と聞くと、「体調不良時に病院を訪れた際しか関わる機会がなく、忙しく、近寄りがたい存在」との回答が多かった。しかし、授業後に生徒に話を聞くと、「質問にも気さくに答えていただき、分かりやすく専門的な知識を教えてもらえて良かった。」と話していた。今回、講師の先生には多くの時間を割いていただいたが、クラス単位で授業を実施したことで、生徒の理解度、満足度はとても高かったように感じる。教員自身のがんに対する正しい知識を増やし、生徒に伝えていくことは今後も努力していくが、医師の方と連携し、様々な視点で生徒にアプローチすることの大切さも実感した。今後も単元の内容によっては医師をはじめ、外部講師の方との協力して授業を進めていき、生徒の学びに役立てたい。